

さんけん新聞

発行
NPO法人
三段峡—太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
090-34213046

◇
<https://sanken-hiroshima.org/>

一口メモ

▼春告げる
雪割草が峡内での一番に春を告げる。冬でも緑の葉を維持し、

消え残った雪の間から花を咲かせる。例年なら三月末、残雪を踏みながら入峡し、雪が踏みながら入峡し、雪が踏みながら入峡し、雪が踏みながら入峡し、

暖冬の今年は二月末に確認できた。芽吹く春はまだ先でも三段峡は、自然との出会いを留意している。

特例認定NPO法人を取得 事務局機能向上の成果 税制優遇

さんけんは2月7日、広島県から税制上の優遇を受けられる特例認定NPO法人に認定された。組織運営や会計の検査を受け、給与規定制定などの指導があった。設立当初から認定を目指し、寄付集めや事務局機能の向上に努めた成果である。認定は県内では12番目。

さんけんは二〇一八年不適切な処理がないか綿密度、活動期間の認定要件を満たし、六月に特例認定申請を県へ提出した。八月に書類修正が整い、十二月に二回の現地調査があり、県環境県民局の職員延べ七人が、さんけんの事務所で組織運営と会計を検査した。職員は総会や理事会の議事録などを調べ、定款通りに運営されているかを確認。委託事業の契約書保存や報告書をチェックし、領収書と勘定元帳を照合して



SDGs人材育成事業報告会 研修生 社内の新企画発表

昨年十二月、三段峡など全国三カ所で開かれた「地域の環境課題解決に向けたSDGs人材育成事業」の報告会が二月十七日、研修生ら約六十人が参加して東京で開かれた。本宮炎理事長は研修受け入れまでの経緯とさんけんの活動をSDGsへ組み込む考え方を述べた。富田さんは発表の中で「さんけんの皆さんの熱い思いが私を変えた。鎌倉と安芸太田は離れているが、協働で課題の解決にあたるマルチステークホルダー・パートナーシップを築こう」と、さんけんへメールを送った。

報告会では研修生がプレゼンテーションし、専門家のパネルディスカッションでSDGsと地域課題について認識を深めた。三段峡チームの代表に選ばれた精密機器関連企業の富田隆博さんは、研修内容を基に企画した、自社での新しい取り組みを発表した。本宮炎理事長は研修受け入れまでの経緯とさんけんの活動をSDGsへ組み込む考え方を述べた。富田さんは発表の中で「さんけんの皆さんの熱い思いが私を変えた。鎌倉と安芸太田は離れているが、協働で課題の解決にあたるマルチステークホルダー・パートナーシップを築こう」と、さんけんへメールを送った。

認定期間は三年、継続認定のためには支援者の百人達成やさらなる組織強化、健全運営が求められる。本宮宏美事務局長は「さんけんのレベルを認定基準に置き、次世代へ引継げる組織にしたい」と、認定取得の意義を語る。高校生の手づくりおもちゃ

加計高校生七人
小屋浦小を応援
県立加計高校生七人と山崎歩美教諭、さんけんの本宮宏美事務局長が二月七日、昨年の西日本豪雨災害で被災した安芸郡坂町の小屋浦小学校が出席する郡サツカ大会の応援に駆け付けた。



手づくりの横断幕を高校生が加計の横断幕に加えて、手づくりの横断幕を高校生が加計の横断幕に加えて、手づくりの横断幕を高校生が加計の横断幕に加えて、

や被災地へ届ける活動で、さんけんがサポートした。昨夏の支援イベントで交流した子供達は高校生を覚えていて、昼休憩にはサツカーのミニゲームなどで歓声上げ楽しんだ。高校生は「自分の得意な技

で子供達を元気にできてよかった」と笑顔だった。さんけんは今後、小屋浦地区と交流し、支援を続ける。自然体験安全管理講座
散策・ツアーに活用
自然体験での安全管理のスキルを学び、現場責任者を養成する講座が二月十三日、十四日の両日、広島市で開かれた。さんけんから小林久哉副理事長と本宮宏美事務局長が受講した。自然体験活動推進協議会の主催。三段峡の散策やツアーの企画、誘致などで欠かせない技術である。「使いやすい安全マニュアルへの作り替え、活動ごとの綿密な情報共有に取り組みたい」と小林副理事長は話した。

南峰と歩く

⑱ 河鹿屋敷(かじかやしき)

「昔建物があつた」口伝の伝説か

葎ヶ原を奥へ進むとすぐ、八幡川と横川の出合

るので、仮に八幡出合橋とされる穏やかな場所である。河鹿屋敷は熊南峰をはじめ、戦後のガイドブックに記していません。地元民話ではあるのだが。

一種の伝説らしい。だとすると南峰や斎藤露翠らが何も要素が多い。人は自然を恐れ、恐怖心を喚起する

の伝説を伴う。美しさだけでなく、恐怖心を喚起する要素が多い。人は自然を恐れ、恐怖心を喚起する

石の川床 清流は鏡

橋を渡り、道が分岐する

景勝にはなり得ず

開発期に設定された景勝

橋を渡り、道が分岐する

辺りの川側の木に河鹿屋敷

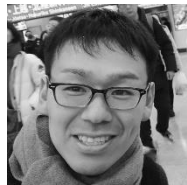
は絶壁、岩峰、巨石、滝、奔

に残したい、不思議で可愛い名前だ。(松尾 俊孝)

多くの人の努力 実感

木原 大輔さん

この人



中国電力の地域共創本部環境計画グループに所属し、地球温暖化防止などに取り組んでいる。昨年12月、三段峡ホテルなどで開かれた環境省の人材育成事業、SDGs(持続可能な開発目標)ローカルアカデミーに参加した。

いつかは観光で訪れてみたいと思っていた。受講して「多くの人の努力と想いが溪谷に詰め込まれているのだと感じた」と話す。三段峡の自然資源の魅力や価値を発信し、これからの世代へ豊かな自然を残せるよう「循環」を意識したアクションを起こそうと考えている。(炎)